

(7) 表彰・文集

① 表彰式

ア. 昭和45年3月11日(水)10:30~13:00

イ. 県教育委員会室

ウ. 出席者

- ㊦ 入選者代表 小学校の部 最優秀賞
齋藤 裕之
ほかに付添2名
中学校の部 最優秀賞
加藤 久恵
ほかに付添2名

- ④ 主催者 県教育委員会教育長
県教育庁社会教育課長
国旗敬愛作文募集委員長
ほかに社会教育課員6名

エ. 式内容

- ㊦ 応募状況・審査結果報告
④ 賞状・賞品授与
(賞品は最優秀賞「新国語中辞典」、優秀賞「用字用語辞典」およびシャープペンシル、佳作賞「用字用語辞典」各1冊)
㊦ 作文朗読
小学生の部最優秀作品「日の丸のはた」
中学生の部最優秀作品「大空に日の丸が」
㊦ 主催者あいさつ (県教育長)

オ. 知事との懇談、記念写真撮影

なお、表彰式出席者以外の入選者に対する賞状および賞品は、所轄教育事務所長より直接、本人に伝達した。

② 文集

入選作品31編を、知事序文、教育長あいさつ、応募状況とともに編集し、「おおぞらに日の丸のはたを」として発刊した。これらは昭和45年4月中に、県内各小・中・高校、市町村教育委員会、公民館および入選者に贈呈する。

(8) 効果

募集にあたり、県広報担当、報道各機関の広報と、教育事務所を通じての各学校への呼びかけが良く、短期間の募集であったが、2,655点の作品が集まり、約34%の小・中校が応募したことは国旗に対する敬愛心の高揚と、郷土や国に対する正しい認識を深めるために大きな効果があったものと認められるし、さらに「人づくりの対話」の一環として推進された本事業の趣旨は、ほぼ、達成されたものと史料される。

14 全国青年学級生大会

- (1) 全国の青年学級生代表による共同生活をとおして、研修、交歓を行なうとともに、その連絡提携をはかり、もって勤労青年教育の振興に役立てる。
- (2) 主催
文部省、全国青年学級振興協議会、福島県教育委員会
- (3) 期 日
昭和44年9月26日(金)~29日(月)
- (4) 会 場

国立磐梯青年の家

(5) 参加者

各都道府県ごとにつぎのとおりとする。

- ① 青年学級生6名(男女各3名とし、このうち勤労青年学級生、青年教室生1名を含めてさしつかえない)
ただし北海道、東京都および指定都市を含む府県は10名とし、うち女子を最低3名を含めるものとする。

(6) 研究方法

- ① 青年学級の先輩にきく(草創の精神をたずねて)
山形 佐藤良盛氏、朝倉千栄氏
福島 大越喜一氏、瓶子保典氏
青年学級の発足時の状況と今後のあり方をきき、青年学級振興についての討議の素材とした。

- ② 青年学級生学習体験発表
「私はこのように学習している」

③ グループ研究

ア. 主題「現代青年としていかに生きるべきか」

私はこう生きる
青年に欠けているものは何か
社会にいかに貢献すべきか

④ 全体研究

グループ代表により、グループ研究の結果を中心としてパネルディスカッションにより実施

⑤ 野外活動・スポーツ・キャンプファイア

(7) 効果

全国の勤労青年が猪苗代に集まり、勤労青年が今後どのように学習し、現代青年がいかに生きるべきか3泊4日の研修を実施し、地域における青年学級の振興の問題について話し合ったことは、非常に効果があった。

また各地の青年が、野口記念館や磐梯高原を視察し感銘を深くして散会した。

第3節 成人(婦人)教育

1 概要

本年度は、家庭教育学級・婦人学級における学習内容の充実と教育効果の向上、成人学校・学級・講座の拡充、高齢者学級の増設、高等学校開放講座の充実、社会通信教育の普及、PTAおよび婦人団体の指導者の養成、健全な活動の助長に重点をおいて推進してきた。

家庭教育学級における学習内容の充実と教育効果の向上については、学習内容編成状況の実態調査に基づいて改善の方向を示すとともに、家庭教育研究集会をとおして具体的研究を行ない、婦人学級については文部省委嘱・県研究婦人学級を拠点としてその充実と普及をはかり、婦人学級生大会をとおし、反省と今後の課題について検討してきた。

成人学校・学級・講座、高齢者学級については市町村教育委員会との緊密な関係のもとにその拡充をはかり、高等学校開放講座については実施高等学校の積極的な協力により内容の充実につとめてきた。

社会通信教育については、会津若松市において研究集会を開催し、働きつつ学ぶ受講生の共同学習班を組織して普及充